

ご挨拶

いつもご支援ご指導頂き、ありがとうございます。
長かった夏が過ぎ、短い秋を経て新しい年を迎えました。

この間、9月議会、12月議会が行われ、また会派や委員会メンバーで県内外の様々な先進的な施策や県有施設の視察を重ねてまいりました。たくさんの視察を行い、その成果を議会での質問や政策要望に繋げていく事は県議会の特徴でもあり、とても有意義であると認識しています。

これらの取り組みを市議会の仲間にも共有していきたいと思います。また、国では衆院が少数与党となり、これまでとは違った議会での議論が展開されています。

県議会では自民党が圧倒的多数を占めていますが、熟議の上で少数派の意見を取り込み、より良い結論が導き出される議会となるよう、働きかけていきたいと思います。

今年も宜しくお願い致します。

県議会議員 八子朋弘

やこ朋弘 プロフィール 昭和48年8月15日生(51歳)しし座・B型

富士見市立勝瀬小学校卒業(少年野球チーム・クリッパーズ所属)
富士見市立勝瀬中学校卒業(野球部・生徒会)
埼玉県立松山高校卒業(応援部副団長・生徒会長)
國學院大學法学部法律学科卒業
(弁論部・野球サークル会長・川越身障者団体「たんぼぼ」お風呂介助)
参議院議員秘書8年半在職
富士見市議会議員(4期)・副議長 草の根代表

■現在(子育て奮闘中)

埼玉県議会議員(2期)
富士見市野球連盟 事務局長・審判部
富士見市野球連盟「スパロウズ」監督
富士見市ソフトボール協会「ベンツ」メンバー
富士見市少年野球連盟所属「エンゼルス」代表
勝瀬ふじみ野サッカークラブ 顧問
関沢小学校PTA 副会長
埼玉県立和光国際高校PTA 会長
西みずほ台保育園・針ヶ谷保育園 理事
福祉NPOグループみずほ 監事
競技かるたチーム「ちはやふる富士見」顧問
富士見市人材バンク推進員
地域子ども教室「関沢キッズクラブ」代表
松山高校応援団OB会 副会長

■家族

小学校から大学まで全て同じ経歴の弟(さいたま市在住)、西みずほ台に妻と長男(21歳)・長女(18歳)・次女(9歳)



応援団長として



県議会議員

八子
やこ
ともひろ
朋弘

Yako Tomohiro 51才

県政レポート やこ通信 No. 63

令和7年1月発行

ぶれない
今までもこれからも

Topics

知事に7年度予算要望書を

直接提出!

無所属県民会議 富士見支部 (県議会議員やこ朋弘事務所)

〒354-0018 富士見市西みずほ台3-3-11 ハイツみずほ台108号
TEL 049-255-8585 FAX 049-255-8585
090-4546-8606 yako@yakogo.com 討議資料

f Tomohiro Yako

X @Yakotomohiro

やこ朋弘 公式HP
yakogo.com



様々な県有施設を視察

県議会会派「無所属県民会議」では、様々な県有施設を視察しています。入間市にある茶業研究所、職業能力開発センター、こども動物自然公園、伊豆高原にある障がい者とそのご家族の宿泊休養施設「伊豆潮風館」等々、県の事業が多岐に渡ることを改めて実感しました。

これら視察の成果を決算や予算の審査、一般質問等議会活動に活かしてまいります。施設によっては皆さんも是非、利用してみてください。



茶業研究所(入間市)



職業能力開発センター(さいたま市)



こども動物自然公園(東松山市)



伊豆潮風館(静岡県伊東市)

県議会と大学生の意見交換会

埼玉県議会初めての試みとして、県内大学生と県議会議員による意見交換会が開催されました。私は広報検討会メンバーとして企画検討に携わりました。

テーマは「若者と政治の距離をどう縮めるべきか、若者の政治離れについて」。

大学生からはSNSの活用等、活発な意見が寄せられました。時を同じくして、富士見市議会でも「富士高生の主張」が行われましたが、このような取り組みは主権者教育の意味からも意義深いものと思われます。

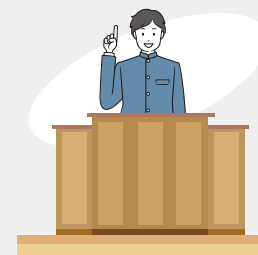
このような取り組みは単年度で終わらせず、継続していく事に意義があると思いますので、今後も積極的に関わっていききたいと思います。



県議会議事堂



富士見市議場



今年も知事に要望書を提出

今年も9月議会最終日の議会終了後、来年度予算要望を提出しました。

各種団体からの要望や視察から得られた改善点、富士見市からお預かりした要望や産業団地の早期完成等市内で進む県の事業の推進等々を知事に直接伝えました。

引き続き実現に向けて、議会審議等の場を捉え、主張してまいります。



大野県知事と

令和7年度 予算要望事項 富士見市



● 子ども医療費助成制度の拡充

- 補助対象年齢を18歳の年度末まで拡大
- 補助基準に一部負担金を設けずに補助
- 子どもが医療にかかる必要性及び必要な治療はどこに住んでいても同じであるべきであり、国が全国一律の制度として、18歳の年度末までの医療費無料化制度の構築を検討するよう国に働きかけること

● 伴走型相談支援及び出産・子育て応援給付金の一体的実施事業における財源確保のための国への要望

● 埼玉県母子家庭等対策費補助金の予算の確保

● 上南畑産業団地建設の着実な推進

● 水谷調節地建設の着実な推進

● 国道254号和光富士見バイパスの早期完成

● 県道ふじみ野朝霞線の歩道整備並びに付け替え工事の推進

● 富士見市の信号設置要望箇所への早期設置

● 新河岸川の除草作業の増加

